

【熊本S.J.C.D.例会 抄録】

演 題 「全顎咬合崩壊のケースをインプラントにより
回復した1症」

演者名 渡辺猛士

日 付 2008年9月30日

keywords

1. 咬合崩壊
2. インプラント
3. MTM (LOT)

抄 録

今回は全顎的咬合崩壊に対するインプラントを用いた修復についてご報告します。

本ケースは患者によると数歯の歯牙崩壊→ブリッジによる修復→支台歯ごとの欠損→を繰り返しパーシャルデンチャー併用の修復→更なる欠損という流れで咬合崩壊に至ったケースである。術者観察にとると確かに患者の言うとおりの流れかもしれないが、根底にブラキシズムなどの非機能圧や、過大な咬合力というものが伺える。

患者が上記崩壊の繰り返しを嫌っており、開始前の条件として①ブリッジを使わない（インプラント部を除く）②パーシャルデンチャーを併用しない、さらに再三の説明にも関わらず③ナイトガードは使用しないとの条件を提示された。①、②はともかく③についてはそのリスクについて詳細に説明し、同意を得た上で治療に入ることになった。

まだ治療後一年半ではありますが過大な機能圧に対する不安はあるものの現在のところ順調に推移しております、諸先生方のご意見ご指導をよろしくお願いいたします。

熊本 S.J.C.D.例会 抄録

演題 「小児咬合誘導と混合歯列模型分析による診断」

演者 鮫田誠也

日付 平成 20 年 9 月 30 日(火)

Keywords

1. 咬合誘導
2. 模型分析

抄録

近年、歯科検診を希望して来院する小児患者の多くに、歯列不正、不正咬合が見られます。その多くは前歯部の叢生や1～2歯の切歯逆被蓋であり、このような小児患者が来院した場合、処置を行うべきか、経過を見るべきか判断に悩むことがあるのではないのでしょうか。このような歯列不正、咬合不正を認める小児患者に対して我々は正常な発育パターンに乗せてあげることが求められ、これにより成人での多くの不正咬合は予防できるはずです。今回は当院で行っている、模型分析を中心とした小児の歯列不正、不正咬合の診断と治療の手順について発表させていただきます。諸先生方のご意見をどうぞよろしくお願いいたします。